

## 東海社会学会シンポジウム

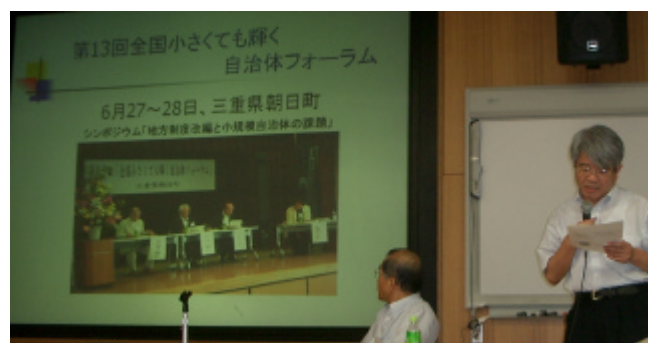
7月12日に「東海社会の『地域力』を問い直す」をテーマに東海社会学会シンポジウムが開催された。報告者は愛知江南短期大学学長の中田實さん、NPO 法人子ども&まちネットの伊藤一美さん、それに私の3人である。討論者は三重大学の児玉克哉さん、名古屋大学の上村泰裕さん、NPO 法人参画プラネットの渋谷典子さんである。

報告・討論は学会の年報で掲載される予定なので、ここでは私の報告概要を示しておきたい。まず例の『合併を超えて自治体自立へ』により、6月の全国小



くても輝く自治体フォーラムや三重県朝日町の地域力を生かした子育て環境の整備などを紹介した。

報告の課題は次の2つである。第1に「構造改革」と地域・自治体であり、市町村合併の構想と現実、第29次地方制度調査会答申のポイントを指摘した。広域連携と



地方自治組織のあり方について、その役割と方向を指摘した。

第2に、東海社会の構造変化と「地域力」である。「地域力」について諸説を紹介して、20数年前の業績『東海社会論』や『都市圏の構造と課題 名古屋都市圏』などにより、東海社会の特質を整理した。その後の東海社会の構造変化、市町村合併・三位一体改革をはじめとした「構造改革」などの影響が「地域力」に及ぼした影響に言及し、地域社会「再生」に向けた課題を提示した。

(2009年8月26日 記)